

長畝ふるさと通信

【2011年10月号】

ふるさと通信も創刊から1年経過しました。今月号は23年産稲作ダイジェストをお届けします。

■ それは大雪から始まった・・・



佐渡はまれに見る大雪でした。春が近づいても金北山は雪に覆われたまま。今年はなにかおかしいぞ・・・

3. 11東日本大震災はそんな中で起きました。幸いにも佐渡は大きな被害もありませんでしたが、報道で見る被災地の状況は農業者として心が痛くなりました。また、食の安全がいかに大切かを考えさせられる大きな出来事でした。

■ お米が作れることにあらためて感謝し、耕耘～畦塗り



4月にはいると田んぼに水を入れ、トラクターで耕耘し、張った水が漏らないように畦塗りをします。いよいよ始まるか！

■ 種まき～育苗



今年は約18,000箱の苗を育てました。播種から田植えまでの間、毎日苗の顔を見るのが仕事でした。低温でなかなか成長しない苗を励ましながら、1ヶ月が過ぎていきました。

■ 田植え～生きもの調査



5月の連休から田植えが始まりました。約2週間をかけて85haの田植えをしました。朝の7時から夕方6時まで毎日、毎日田植機にまたがっていました。晴れの日には気持ちよく、雨風の日には歯を食いしばって震えながらの田植えです。

6月になると苗の成長も落ち着き、一面みどりのじゅうたん状態になります。田んぼではカエルが合唱し、トンボの羽化が始まります。生きものの命が躍動しているのがわかります。

■ 花が咲いて実りの秋を迎えます

今年の夏も猛暑でした。田んぼの畦草刈りが体にこたえます。苗は小さな白い花をつけ、お盆前には出穂します。放射能汚染が心配されましたが、結果的には安全でした。



■ そして収穫の喜び・・・ありがとう



トキの餌場となっている田んぼでは、遅くまで水を張っていたのでコンバインが入らず、今年も総出で昔ながらの手刈りをして、はさがけにしました。このお米は「朱鷺と暮らす郷からの贈り物・天日干しはさがけ米」として年末ギフト用に販売いたします。詳しくは組合のホームページをご覧ください。

こうしてできた「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」をみなさんに食べていただいています。腹一杯召し上がってください！

■ 11月26日の収穫感謝祭はまだ募集中です。ぜひご参加を検討下さい。